

# 令和5年度 西東京市立 碧山 小学校 学校評価表

学校教育目標		◎自分でよく考え工夫する子    ○ねばり強く前向きに取り組む子    ○人の立場に立って行動する子				
目指す学校像		子どもが生き生きと前向きに活躍し、保護者・地域から信頼される学校 ～一人一人のよさが生き、共に学び高め合っていく教育活動を通して～ (個性の尊重) (共生の重視)				
目指す児童像		・課題解決のために主体的に考え創意工夫する子    ・物事を前向きにとらえ、積極的かつねばり強く取り組む子 ・人とのかかわりを大切にし、力を合わせて活動する子				
目指す教師像		・探究的・問題解決的な学習を実践し、子どもの自己解決力・学ぶ意欲の向上を図ることのできる教師 ・不断の向上心を持ち、前向きに工夫・改善を目指す教師 ・一人一人の子どもを大切にし、子どものわずかな変化を見落とさない教師 ・学校組織の一員として協力・協働して取り組む教師 ・子どもを中心に考えるとともに、保護者・地域から信頼される教師				
		前期学校自己評価		前期学校関係者評価		
		努力目標	成果目標	評価		
		学校の取組及び改善策		記述欄		
確かな学力の向上	Q1 GIGAスクール構想の推進に向けて、タブレット端末の活用を図ることができたか。	3	3.2	学校全体として、月に2回程度朝の時間にタブレット学習を行っている。1年生は6年生と一緒にタブレットの使用方法やルール、マナーを指導し、保護者にもプリントを配布して周知に努めている。調べ学習で検索をしたり、調べたことをまとめて発表する際に使ったり、写真機能を使って観察記録を撮ったりと、今後も児童の発達段階に合わせて積極的に活用していく。	3.3	・上級生が下級生に教える等工夫が行き届いている。 ・タブレット活用と共に「手で書く」「リアルで語る」こともこれからも大切にしてほしい。
	Q2 地域の教材、人材を活用したり、体験的な活動を取り入れたりと、問題解決力の向上を図ることができたか。	3	3.2	今年度からコミュニティスクールの取組の一つである「西東京ふるさと探究学習」が始まり、地域の人材に授業で協力いただく機会を多く取り入れるようにしている。地域の農家さんやスーパーマーケットへの見学や下野古遺跡のVR体験など、学年ごとの学習内容と地域の教材や人材を組み合わせて魅力的な学習を計画し、実施していく。	3.3	・教員だけでなく地域との触れ合いを基に学びを深めており、良い工夫がなされている。
豊かな心の育成	Q3 いじめをしない、させない集団作りを行うとともに、差別や偏見をもたせない学級経営、学年経営を行うことができたか。	3	3.2	いじめ虐待防止校内委員会を隔週に1度行い、各学年の状況を全校で把握している。また、週に1度の生活指導夕会では、各クラスの状況や配慮する児童の情報共有を図り、全教職員で児童の様子を見るようにしている。さらに、教員向けの研修を学期に一度行ったり、いじめに関する指導を教育課程に位置付け、児童への授業や指導を行ったりするなど、未然にいじめを防ぐ取組を継続していく。	3.2	・多忙な中、子どもの様子を良く見守っている。 ・いじめには個々に理由がある。自分の嫌なことを他人に押し付けられない生き方を引き続き教えてほしい。
	Q4 「西東京あったか先生」に沿った指導で、児童・保護者から信頼されるように努めることができたか。	3	3.5	西東京市では「あったか先生」の6項目（ホームページ参照）に基づいて指導に取り組んでいる。教職員で人権の研修を行い、児童一人一人を大切に取る取組を行っている。また、児童が相談しやすいように、教師から積極的に声掛けをしたり、2学期のはじめには全員との面談を行ったりして、日頃から児童との信頼関係を築くようにしている。	3.3	・一人一人の児童と改めて面談をする等多大な努力を払っている。 ・子どもの声をこれからもできるだけ聞いてほしい。
	Q5 元気な挨拶、「はい」という返事を大切に、基本的な生活習慣の定着を図り、きまりを守る児童の育成に努めることができたか。	3	3.7	今年度からあいさつグッドワークの取組を各学年や学級で計画を立て、各学期に1週間程度取り組んでいる。児童の自主性を尊重し、取り組む中で気持ちのよい挨拶を習慣化できるよう続けていく。碧山小の約束がきちんと身に付くように、教職員で課題を把握した際は共通の認識で同じ指導をするなど、きめ細やかな指導を続けていく。	3.3	・社会性を実地で学ぶ工夫がみられる。 ・条件反射のような「はい」ではなく、応答できると良いと思う。 ・挨拶ができる子どもがとて増えた。 ・相手に伝わる挨拶を心掛けるのとより良くなる。
健やかな体の育成	Q6 体力テストの課題運動を体育の導入に位置づけるなど、児童の体力向上を進めることができたか。	3	3	1学期は、体育授業参観や学年での水泳指導の時間が多く、その中で体力の向上を図ってきた。2学期以降は体育の授業の中で工夫したり、休み時間の一部の児童だけでなく、多くの児童が外に出て意欲的に運動に取り組めるように、休み時間に様々な道具(ボールなど)を貸し出ししたりするなど、体力向上につながる取組をする予定である。	3.2	・コロナ禍で外に出られない習慣を少しずつでも努力して体を動かす工夫がみられる。 ・楽しんで体を鍛えられるよう工夫をしてほしい。 ・運動が苦手な子どももいるので参加しやすい状態が作れるとよい。
	Q7 児童の食物アレルギーに細心の注意を払うとともに、特別支援教育の充実を図るため、具体的な方策をもつなど保護者と協力して支援することができたか。	3	3.7	児童が安全に学校生活を送ることができるよう、4月初めにアレルギーに児童の確認や研修を行っている。日々の生活の中では、給食の際に、複数の教員でチェックする仕組みを取り入れている。特別支援教育では、児童の実態を担任だけでなく特別支援コーディネーターや専門員と情報共有し、保護者の理解を得ながら進めている。今後も組織的に取り組むようにしていく。	3.5	・アレルギー対応が多様化している中でよく対応している。 ・特別支援教育の意義を保護者や児童の皆が理解し、役立てていってほしい。
地域と歩む学校	Q8 地域の人材を積極的に活用し、保護者や地域が学校に寄せる思いや願いを受け止め、すばやい対応・親身の指導を日々行うことができたか。	3	3.3	1学期は、土曜授業において学校公開を実施し、体育授業参観、保護者会、夏季休業中個人面談など、開かれた教育活動の推進に向け取り組んだ。来年度は、行事などの後にアンケートを取り、保護者や地域の願いを受け止め、教育活動に反映させていきたいと考えている。	3.3	・保護者の声を聞き良く取り組んでいる。 ・アンケートを活用して学校と家庭・地域の双方向の意見交流ができると良い。
	Q9 学校便り・学年便り・学校ホームページ等を通じて情報発信に努め、教育活動に対する保護者や地域の理解を深めることができたか。	3	3	毎月、学校便り・学年便りの発行をして、学校の様子や行事予定などを発信している。また、ホームページを活用して、学校の様子を載せたり、育成会やPTA・おやじの会などの取組を写真と文章で紹介したりしている。今後も発信を続け、多くの方に見ていただき、教育活動の目的や活動内容等に対する理解を深めていただけるよう努める。	3.2	・充実した発信に取り組んでいる。 ・ホームページで学校の様子を定期的にしっかりと発信している。 ・地域との素晴らしい取組をもっと発信してほしい。
働き方改革	Q10 仕事の効率化を図り、時間外労働を減らすことができたか。	3	2.5	教員の仕事は、学習指導、学級経営、行事の企画推進など多岐にわたる。また、お便りの作成や保護者への連絡なども行っている。ほとんどは授業が終わった後に行うので、学年でできる仕事は分担するなどしているが、効率的にするためにはまだ工夫の余地があると考えている。まずは教職員が毎日元気に職務に専念できるよう、互いの様子を気遣い、時にはフォローし合ったり、担任以外でもできる仕事は副校長業務支援員・スクールサポートスタッフの力を借りたりするなど今後も努力と工夫が必要な課題である。	3.2	・すぐ解決とはならない大変な課題である。先生同士で助け合っていけるよう努力が見られる。 ・先生方が子どもとの関わり授業の準備に十分な時間と心をかけられるよう願っている。 ・働き方改革と並行して、地域が何をしているかは理解してほしい。

